# カトリック高松教区報

２０１２年５月５日（第１４８号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/


マザー・テレサの言葉
わたしたちにとって、マリア様は喜びの源です
わたしたちにイエス様を贈って下さるからです。
わたしたちもイエス様を贈ることによって
ほかの人々の喜びの源になることができます。

## 高松教区　春の新体制が始動

高松教区（諏訪榮治郎司教）は新年度の人事を決定し４月から新体制が動き出した

### 「皆さんを忘れません」
ホセ・ヴィデガイン神父

私は４月に日本から離れ故郷に戻ります。皆さんに２つのことを言いたいです。

まず、１つ目は「感謝」です。33年間、高松教区の司祭として働きました。７年間は丸亀で、残りの26年間は三島の教会に居ました。

三島は小さな教会ですが、家庭的でいろいろなことを経験し、色々なことを学びました。今、私は「感謝」の気持ちでいっぱいです。

２つ目は「さびしい心」です。私はスペイン外国宣教会に入会するときから日本に行くことを望んでいました。同じ県で生まれた「ザビエル」の影響を受けて日本で宣教師として働きたかったのです。

ここを去るのは本当に「さびしい」です。しかし、故郷に戻っても私はやりたい２つのことがあります。

１つ目は子供たちにキリストの話を伝えること。

２つ目はこの子供たちが日本の、キリストを知らない人のために祈るようになってほしいのです。

最後になりました。高松教区の司教様、司祭、シスター、信徒の皆さん、私はいつまでも皆さんのことを忘れません。「ありがとうございました！」

## お導き頂いた神父様に感謝

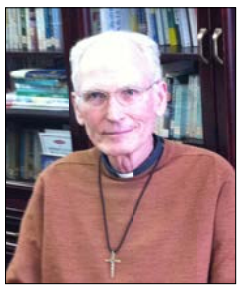
### 「これからも神様の計画を生きたい」
ウィリアム・マヘル神父

私は４月から転任いたします。最近、久しぶりに高知の中村教会を訪れ、一晩泊まりました。そして、徳島に帰って、荷物を整理しながら、高知での17年間と、徳島での合計16年間を、ゆっくりと思い巡らす時間をいただきました。私の33年以上の四国で働いた年月が、走馬灯のように浮かんできました。

中村では、１９７１年から第二バチカン公会議の現代社会における教会憲章の最初の言葉である喜びと希望、悲しみと苦しみを共にする、その精神であらゆるレベルの方々と、情熱を持って宣教司牧活動をすることができました。

それは新しく建った中村教会の献堂式によく現れていました。全四国からたくさんの信者、市長などの来賓客に加えて、重度の障害者の方々がたくさん来て下さったからです。　まさに、あの教会憲章が実りとなって、実践されたことに感動しました。この時代はヨハネ23世の希望通り、教会が窓を開いて、聖霊が新たに働いてくださいました。

次に徳島教会で働くようになりました。ウイリアム



ス神父様や西川先生の指導のおかげで、評議会もすでにあり、よく動く立派な教会でした。

合計16年を徳島教会の皆さんと共に歩みました。洗礼のための準備、ミサ、クリスマスや聖週間の典礼、病人訪問、それから楽しかったパワフルなファミリーキャンプ、伝統のバザー（皆で作った７００個のアップルパイの美味しかったこと）、クリスマスの馬小屋作り、市民クリスマスなど、多くの方々とかかわりました。そして、また多くの愛する兄弟姉妹をお見送りもしました。

楽しかったことも悲しかったことも今になってみると、神様の計画の一部であったように思います。この共同体と一緒に歩むことができたことを、本当に感謝しています。

今、私は74歳で、オブレート会の宣教会のメンバーです。

東北の教会が、ボランティアの司祭を探しているという話を聞きました。東北の手薄になった教会を臨時的にボランティアとして働く精神は、オブレート会にふさわしいと思い、希望を出したのですが、叶いませんでした。

４月から古賀教会に転任して、オブレート会のカリスマを生かす宣教活動に協力してまいります。

皆さん、いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

## 司祭叙階記念
５０周年（金祝）　６０周年（ダイアモンド祝）

## おめでとうございます！

１９５１年９月９日、ドミニコ修道会において司祭叙階。１９５２年来日し松山教会に赴任。今治、北条、道後教会の主任を歴任。ドミニコ会アジア地区香港本部において管区長代理、ドミニコ修道会ロザリオ管区日本地区長、愛光学園理事長、同学園宗教、倫理、英語教諭、ロザリオ学園理事、修道院長を務め現在に至る。

サトルニノ・ゴンザレス
デルガド神父（ドミニコ会）
スペイン出身（85歳）

イルデフォンソ・ゴンザレス
コブレセス神父（ドミニコ会）
スペイン出身（74歳）

１９６２年７月22、日アビラの聖トマス修道院にて司祭叙階。１９６３年フィリピン１９６４年５月に来日し、東京六本木日本語学校にて日本語を習得後、東京ドミニコ学生寮と松山教会で協力。１９７５年から新居浜教会主任兼務愛光幼稚園園長、愛光学園教諭、東京ドミニコ学生寮担当、今治教会主任、若葉幼稚園園長、松山聖トマス学生寮長兼務松山教会協力司祭、等を経て現在に至る。

## 皆様との出会いを楽しみにしています
林和則神父

初めまして。この春から高松教区に派遣されることになりました大阪教区司祭の林和則です。大阪は東大阪市、いわゆる河内（かわち）の地域の真ん中で生まれ育ちました。在日韓国人３世です。１９９９年３月に司祭叙階を受けました。25歳で会社を辞めて司祭になることを志した時は、サレジオ会の神学院にお世話になりました。そして助祭になるに当たって大阪教区に移りました。その経緯はいろいろありましたが、今となってはすべて神さまの計らいであったと思えます。そして今、当時お世話になった溝部司教様、村上神父様らサレジオ会員の深く関わる高松教区で働くことになって、あらためてそうだったんだと実感しています。高松教区で働くことは神さまが私に用意してくださった道のりであったんだと。

司祭になって13年ですが、高松教区では新司祭！新たな気持ちで神さまが与えてくださる皆さんとの出会いを心から楽しみにしています。よろしくお願いします。

## 地区宣教司牧評議会規約改正について
### 3月拡大宣教司牧評議会司祭評議会からの報告

３月４日～５日今治教会で開催された（拡大）宣教司牧評議会において地区宣教司牧評議会規約見直しに必要な項目の洗い出し、並びに改正すべき点の方向性が提案され、その結果を踏まえた同規約改正案を司祭評議会においても審議し、改正への大筋を探った。

此の度の司教教書では小教区を超えた「ブロックを生きる教会」を謳い、小教区が単独で歩むのではなくブロック、地区で協力して歩むことを目指している。たとえば“一人の司祭の限界”となることがないような協力態勢を整えて歩んでいきたい、としている。

２００７年に各地区一斉にスタートした地区宣教司牧評議会規約は４年を経た現在、不都合点が多々表面化してきた。

そのいくつかは地区宣教司牧評議会規約第４条「構成」、８条「任期」と10条「派遣」にある。（以下４条等と表記）

４条では条文から、地区宣教司牧評議会に参加する司祭は地区長のみという理解となり、司祭、修道者、信徒と共に歩む協力宣教司牧という精神から遠く、司祭との連携に隙間が生じている。このため４条では地区で働く司祭の地区宣教司牧評議会への原則参加を条文に加えることとした。

８条「任期」と10条「派遣」については今回の（拡大）宣教司牧評議会の総意として、５月教区宣教司牧評議会役員会に招集される正規評議員全員を一旦解散し、地区評議会にて新たに教区宣教司牧評議会に派遣する１期評議員（２年）及び、半期評議員（１年）を選出して頂く。

本案の実施によって、教区宣教司牧評議員が改選時に一斉に入れ替わるような現体制が改善されることになる。

但し、地区、教区共々任期は４月１日付けと統一した上でスタートする。

これにより６月開催予定の教区宣教司牧評議会は全員が新規の評議員で構成されることになる。

この件については５月本評議会役員会において提案し、決議を得ることとする。

＊上記審議について地区宣教司牧評議会改正規約特別チームを立ち上げて、詳細を検討し詰めることに全員の賛同を得た。

## ２０１２年度　高松教区人事

〔香川地区〕　（ ）は前任職
東讃ブロック・村上康助師　教区本部事務局会計担当兼務　三本松教会担当
・松永洋司師（番町教会担当）高松聖母幼稚園園長兼務
・池田義高師（高松聖母幼稚園園長）同園長退任
・イム・ワン助祭（司教館付）桜町教会協力助祭・四国会館管理者
西讃ブロック・ソーサ・ホルヘ師（桜町教会協力司祭・四国会館管理者）坂出教会協力司祭
〔愛媛地区〕
東予ブロック・セコ・パウロ師（三本松教会担当）　新居浜教会主任・伊予三島教会主任
・ユ・ペドロ師　（新居浜教会担当）　東予ブロック協力司祭
・ホセ・マリア・ビデガイン師　（伊予三島教会主任）スペイン帰国
〔徳島地区〕
・ウィリアム・マヘル師（徳島教会担当）　福岡教区古賀教会
・林　和則師（大阪教区住之江教会）徳島教会担当
・シルバー・ベルトラン師（阿南教会・阿南聖母幼稚園園長）同園長退任
・乾　盛夫師（鳴門教会担当・鳴門聖母幼稚園園長）阿南聖母幼稚園園長兼務
〔高知地区〕
・Ａ・イルダヤラージ師（中島町教会・江ノ口教会担当）
中島町教会・安芸教会担当
・硫黄隆二師（安芸教会・赤岡教会担当）　江ノ口教会・赤岡教会担当
・ヒラン・インディカ師（大阪教区伊丹教会）江ノ口教会・赤岡教会協力司祭
・ブルゴアン・レモン師（高知地区協力司祭）中村教会担当
・トマス・マヘル師（中村教会担当）高知地区協力司祭
・溝部　脩 司教（江ノ口教会協力者）西陣教会（大阪教会管区付）
〔本部事務局〕
・カンバラ・デシデリオ師　司教総代理退任
・村上康助師　司教総代理・三本松霊性センター管理者

## はばたき

教会のオルガニストを務めています。なかなか満足のいく伴奏になりません。

心が落ち着いていて集中出来る時は何とか務まっていますが、何か心配事があったり、心にゆとりがない時は小さなミスを連発したりして冷や汗をかいてしまいます。その時の心の状態が表れてしまうのです。

典礼に合わせた弾き始めのタイミングやテンポ、音量のこと、次に控えている聖歌のことに頭が奪われミサが終わるまで緊張してしまいます。そういうことに気を取られて、ミサを心から味わえなくてさみしい気持ちを持ちます。

そんな時、周りの人に「あなたは神様へオルガンの伴奏で祈りをささげているのね、それは素晴らしいことなのよ」と言っていただいたりすると、心がパッと晴れて軽くなります。神様が私たちのオルガン奉仕を祈りとして受け入れてくださると気づかされるからです。

そう思うとうれしくなり、楽しくもなり、まだ味わったことのない聖歌を引き出してみたくもなります。祈りやメロディーがきれいなだけではなく、ハーモニーがハッとするほど素晴らしく美しい曲を見つけると弾きたくなります。

オルガニストの役目は典礼の祈りをよりよく捧げるための援助者となるところにあります。

教会の多くのオルガニストの皆さん、私たちの働きが神様の栄光をより誉め讃えるための道具となれるように努力したいものです。

# 小教区紹介

## 郡中教会（愛媛）

『イエス・キリストは復活された』。正面を通る人々に、み言葉が語りかける郡中教会の姿がそこにある。

和やかなミサが終わると、教皇ベネディクト16世の自発教令、「信仰年」開催の告示を皆で味わい、信仰年を取り組んでいる。

信徒たちは、創立以来の家庭的雰囲気を今もそのままに、これまで7人もの修道女を輩出してきた。

またお隣の天使幼稚園から土曜学校に上がってきた子供たちを大事に、大祝日には聖劇を上演するほどの姿へと育てる。そして、国内外の困窮者を支援する活動は郡中教会の福音宣教の真骨頂ともいえる。ＮＰＯ「天使会」を起ち上げるほどで、現在ではご近所を巻き込む勢いで、東北の支援にも当たっている。

小人数の共同体の上、年齢構成の高齢化の中にもかかわらず青年、壮年、子供達は自分の持ち場をよく生き、わきまえる和気あいあいとした温かい姿が印象的な教会だ。

谷口広海

### 子供たちを大切に

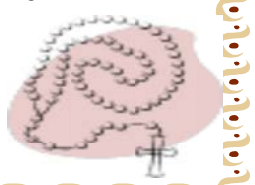
復活祭を盛大にお祝いする中で「ハイ、チーズ」

## ちょっと　ひといき

### 感謝

川柳　感謝

空あまり澄むと胸が哀しいな
今日生きた感謝で夕焼け燃えている
祈る人今咲いている紫苑かも
この胸の温かみ人に上げたいな
笑うとね皆少年の顔になる
明日という希望むらさき菫咲く
この手と手繋ぎロザリオになっちゃった
沈丁花匂えば優しさ湧いてくる
努力賞貰った喜び空仰ぐ
雨上がり優しさ陽炎揺れている
あの空が目標十篁夢伸ばす
哀しみを秘めいて胸の湖は澄む



## キリストの下でひとつに

### 坂出で朝祷会四国大会開く

四国大会は毎年、各県持ち回りで開かれ、今年は3月20日に坂出市内の日本基督教団坂出教会を会場に、カトリック教会（坂出教会　8名、善通寺教会1名、桜町教会6名）およびプロテスタント教会19名の信者が参集しました。

朝祷会の綱領はイエスをキリストと信ずる全ての人々に開かれた超教派の祈りの運動である。また、キリストの愛に共に生かされるように一致を求め、福音の前進と、主にある平和を祈ります。

朝祷会の内容は、御言葉を聴き、賛美を捧げ、心を合わせて祈り、食卓を共にして交わりを深めます。

今回参加の朝祷会メンバーは、高松朝祷会（カトリック桜町教会所属）、坂出丸亀朝祷会（カトリック坂出教会およびカトリック善通寺教会所属）、松山朝祷会、宇和島朝祷会でしたが、毎回常連の高知朝祷会の欠席は残念でした。

大会プログラムの1部は祈祷会、2部は会食・懇談・協議の構成でした。

1部では、奨励（説教）が信太聖吾牧師による「主イエス・キリストの交わり」、自由祈祷（共同祈願）は、東日本大震災、教会一致、各朝祷会、世界平和のためでした。2部では懇談において各朝祷会報告（出席教会の紹介等）が行われました。

カトリック教会が朝祷会に参加し始めたのは1962年からであり、第2バチカン公会議を契機にエキュメニカルな一致運動を推進しています。

朝祷会は、次の4つ祈りのテーマを中心にしています。祈りの復興（コロサイ4：2）、教会の一致（エフェソ4：5）、キリストの平和（エフェソ2：14）、若者の救い（コヘレト12：1）からなり、全ての人が一つになるように祈っています。一人でも多く、朝祷会に関心を持ち、参加して頂くことを願っています。

桜町教会
立浪敏男

## ひと

### 教会を守る頼もしい力に

徳島教会　木内雅和（まさかず）　（３７歳）

神様は木内雅和さんによき賜ものを与え、あふれさせてくださっています。

小学校低学年の頃より侍者をされ、中学生になってからはオブレート会の召命キャンプに参加し、十年余り続けられました。

小さな鳴門教会では貴重な頼もしい青年です。香部屋の仕事はもちろん、典礼、行事等の準備、片付けなどをいつも快くして下さり、惜しみなく働く木内さんの存在は教会に欠かせません。笑顔と明るい話し方は、カトリックの快活さでしょう。私たちの知らないうちに、ひとり細やかな奉仕をして下さっているのです。

ご両親とで鳴門金時（宣教大会で奉された絶品さつま芋）と大根を作っておられますが、その合間には何度も聖地巡礼に行かれ、シルバー神父様の補佐やミサの侍者を勤められました。沢山の友人に恵まれ蕎麦打ちもできる彼は、昨年末には百人分もの年越し蕎麦を頼まれたそうです。

四年程前より教区の青少年委員会の委員に任命され本領発揮し励んでおられます。

一年程前には大きな手術を受けられました。これからもお体を大切に元気で歩まれますよう願っています。そして、少年の頃からの神様のお手伝いによって培われ、磨かれてきた賜ものをますます膨らませて下さいね。

鳴門教会　　三原千栄子

## 『典礼奉仕』のために ⑯

高松教区典礼委員長　レナト・フィリッピニ

### 典礼における本末転倒

私たちは毎週、日曜日のミサに参加していますが、知らず知らずのうちに慣れてしまい、無意識に、次のような光景を目にしていませんか。

**1・祭壇の横の小さな机**

それは、ただ杯と水の容器を置く為の単なる台に過ぎません。祭壇は典礼を行うために油注がれ聖別された尊いものです。その小さい机の役割は祭壇と全く違うレベルのものですから、離れたところに置きましょう。

**2・聖体拝領後の「一礼」**

十字架に対して多くの皆さんは崇敬を表します。しかし、聖体を頂いているのに十字架に一礼する理由は何でしょうか。手のひらにキリストご自身がおられるのに、それ以上誰に尊敬を表すのでしょうか。

**3・聖櫃に対して**

聖櫃に対しては尊敬どころか結構無視されているような気がします。教会を訪問するとき、聖櫃には聖体のイエスがおられるのに、まずどこに向かって挨拶しているでしょうか。

**4・典礼書**

典礼書は確かに大きいし、台が要る場合もあるでしょう。しかし、杯（カリス）とパテナを隠さないようにしたいものです。私たちが崇めたいのは祝別されたパンとブドウ酒となられたイエス・キリストでしょう。典礼書ではないのです。

**5・バラバラの奉納物**

奉納行列の時、パンだけが運ばれていることがあります。ブドウ酒も奉納物です。小さなホスチアは奉納物として運ばれますが、大きいホスチアは内陣の机に杯と一緒に置き去りになっています。

**6・鈴**

聖変化の時、鈴を鳴らす必要はありますか。もともと鈴を鳴らす目的は、聖堂が大きくて、祭壇で何が行われているか見えず、ラテン語でしたから理解もできず、信徒たちはお喋りしていたからです。だから「聖変化」の時に今は大事なときだとわかるよう鈴を鳴らしていたのです。現在、多くの教会は規模が小さく、典礼も日本語です。祭壇の上で何が行われているかはよく見えているでしょう。

**7・お知らせの長さ**

ミサの総則#１６６には「短く」と書いてあります。即席のお知らせも多いのではないでしょうか。ちなみに情報が多すぎては覚えられないでしょう。プリントにしたら持って帰ることもできます。

以上のことは、典礼に無関心か、意識していないということを表していると思います。典礼にふさわしくない便利さ、簡単さ、慣れとなっています。　何かする場合にバタバタの準備になったり、肝心なことなのについつい二の次になっていることがあります。また、いつの間にか道具が中心になっているという現状もあるでしょう。要するに本末転倒ということです。

本来、典礼に求められている基準や方法は、美しく素晴らしいものです。荘厳に、尊厳、優美、品格をもって、ますます神の栄光を表すものとなるように努めましょう。

## 神学生便り

司祭への道を頑張ります、お祈りください。

後列中央が宋（ソン・ヒョングン）神学生

イエス様はまことに復活されました。アレルヤ。

主の復活の光栄と恵みが皆さんと皆の家庭にありますように。

こんにちは。神学生ソンヒョングン（ヤコブ）です。

去る3月29日から福岡神学校で神学科2年生に編入させていただきました。

新しい環境と生活に適応することができるかどうか心配していましたが、神父様たちや同僚神学生たちの暖かい心と愛の中で楽しく生活しています。

全国各地から集まった16人の少ない学生たちで、学校の全般的なことを引き受けているので少々忙しい生活の連続です。

今年は初めて神学校の復活の典礼に与りました。私は典礼部で奉仕するようになり、忙しくしていましたが、今はやっと訪れた復活の喜びを満喫しています。

こちらの生活は朝6時15分から朝の祈りと黙想、ミサで始まって午後6時の晩の祈りで終わります。土曜、日曜日には司牧実習で福岡教区大名町教会に行くことになりました。

神学校へ来たばかりなので、こちらの生活については次の機会にもっと詳しく報告できればと思っています。

2年半、司教館で生活していましたが、信者さんたちからもらった応援と祈りを忘れないで、少しでもお返しすることができる司祭になるために頑張りたいと思っています。

私たち神学生のためにも忘れずにお祈りをお願いします。私も皆さまのために祈ります。

宋（ソン）ヒョングン

カトリック日本神学院　福岡キャンパス

## キリストのように寄り添うことの大切さ

ブラザー八木信彦

カリタスジャパン大船渡ベース「地の森いこいの家」に、２月１８日から２４日まで約１週間滞在しました。

**滞在の目的は**

①一年経った被災状況(大船渡周辺)をこの目で確かめ、
②そこで出会う人々(被災者の方々、ボランティア)の声を聴くこと。以上のことから、
③被災地に高松教区の若者を派遣するとすれば、彼らができる可能性は何なのかを模索すること。主にこの３点でした。

①被災状況
・あまりにも大きな災害のために、何から手をつけていけばいいかその優先順位がわからない。
・同時に国や地方行政の方針がまだあいまいなため、一歩を踏み出せない。
・ゆがんだり落ちたりしているガードレール、倒れた電柱、廃墟となったビルや家屋、流されて海の中にある家屋、泥でつまった溝、がれきの山々が依然そのままである。

②人々の声を聴く。この地域には「お茶っこ」という習慣があり、こたつに入り、お茶を飲み、お菓子をつまみながら世間話をする。滞在した「地の森いこいの家」を訪れる方々と、このお茶っこを通して深い交わりを持つことができた。その中で以下のことを聴いた。
・津波からの避難についての話では、恐怖からの震えで逃げたくても歩けなかった人、浮いたテニスネットをつたってたどって助かった人、押し寄せた海水の上で浮いていた畳の上で助かった人等、体験してみないとわからないことが多くある。ただ、今はざっくばらんにその体験を語れるようになった。

ノルディックウォーキングをエスコート

・この地域の持ち家は敷地が広いので、仮設の狭さにだいぶ苦しんでいる。
・自分の家でないと植物を植え育てる気持ちにさえならない。
・押入がないから物を買えなくて購買意欲もなくなるので、早く自分の家が欲しい。
・故郷や家族を亡くした喪失感が、何かをしようとする意欲をそいでしまう。
・購買意欲がわかない、買い物に行かない、ストレスがたまりやすい。このような負の連鎖に陥ってしまう。
・男性は酒やギャンブルに走りがちで、パチンコ店が繁　盛している。
・津波の恐怖体験でPTSD(心的外傷後ストレス障害)の症状を示す子どもたちも多い。

地の森八軒街イベント支援

・津波のおかげで、自分の持ち物の整理ができ、全国から訪ねてきてくれるいろんな人との出会いがあって、本当に良かったと話す方もいた。

③若者ができること
ボランティア活動の基本として、「若者(ボランティア)」が「被災者」へという一方的な活動ではなく、双方からの「お互い様」の精神でなければならないと感じる。

○「若者(ボランティア)」から「被災者」へ
・震災以前から若者を都会に送り出す地域であったためお年寄りが多く、若者が来てくれることや若者の存在そのものが大きな喜びになる。
・まず若者が現場に立って現実を見ること。
・訪問する前に「傾聴の仕方」を学んで、被災者の方々の生の声や体験談をじっくり聴く場があればいい。
・簡単な劇や音楽等の披露の準備をしていけば、なお喜ばれる。

○「被災者」から「若者(ボランティア)」へ
・訪れる若者、喜びの源となる若者に、津波や地震の体験を語ることによって、自分の辛さや困難に向き合う機会となり、それを乗り越える原動力につながる。
・若者の今後の防災意識を高めることにもつながる。

**四国で出来ること**

①祈り
・亡くなった方、行方不明の方、遺族の方のために。
・被災地の方々が力強く歩めるように。
②送付出来るもの
　1.募金：まだまだ必要だと感じる
　2.物資：ニーズはその時々によって変わるものなので、送付の前に必ず連絡して聞くこと
・現地のイベント等で使用されるもの(要連絡)、(2012年2月下旬現在必要なもの)お米券、子ども用おむつ、子供服(大人の服等は間に合っている)
・名産の果物やお菓子(お茶っこで使う)
③体制
・若者や信徒代表を被災地に派遣できるよう交通費等の援助をする。
・行ってきた人は帰って現状を報告し、できることを考察する
④手紙
　特に仮設で暮らしている人々には、全国から来る手紙で励まされている。

最後に、大船渡で気付き感じた大切なことを２点を挙げます。冒頭で、まずは現地に行ってみて状況を自分の目で確かめることが、目的の一つだと書きました。遠くにいたのでは、また新聞・ニュースだけでは被災者の方々がどのように生活され、どのような喜怒哀楽があるかわからないと感じていました。一週間という短期間でしたが、実際に行ってみて、充分ではないにしてもそれらのことを垣間見られたように思います。

そこで気付かされたことは、キリストもそうだったということです。天の国という遠い所からでは、実際の人々の暮らしや喜怒哀楽を親身に受け取れないと感じた神さまは、人々の世界に入って生活し、共に寄り添ってくれるイエス・キリストを送ってくださったのでしょう。

決して助けよう、癒そう、慰めようという気持ちで訪れるのではなく、自分は無力であることを自覚し、被災者の方々にそっと寄り添うことがとても大事だと感じました。

## 「協力宣教」で分かち合い

### ー北条で春の教区司祭集会ー

この春の司祭集会では司教教書で謳った「協力宣教」を重点的に採り上げ、これを4つのグループで討議した。紙面の都合上、全討議録の掲載は無理であるので、そのあらましをまとめ、箇条書きの形で報告したい。

協力宣教司牧における福音宣教について、小教区・ブロックを対象範囲として、問題提起がなされ、特に現実をどのように見ているのかを分かち合いながら討議が進められた。

○意識レベル
・昔ながらの信徒の意識（宣教は司祭・修道者の占有）
・クラブやサロンといったファンクションとして、いわゆる教会が付属に在る感である。
・小教区の中で、仲良しグループを超えた繋がりを勧めても、司祭の交わりが少ない。
・第二バチカン公会議の意義、理解が浸透していない。
・司牧を役務としてきた司祭が、バチカン公会議で謳われた教会態勢の態度を共同体の中で、どう生きているかを学び、自ら共同体の一員として生きること。
・信徒自身が宣教の最前線にいるのだという、意識の遅れ。協力宣教司牧が福音宣教をする教会共同体の活動態勢であるという共通理解への基礎的養成が必要。
・教会内でのオフィシャルなマナーの未訓練。

○養成レベル
・司祭の意識改革。共に祈り、黙想し、神のみ旨が何であるかを共に探しながら、キリストに従うものとして回心の道を歩む真剣な姿、協力姿勢が問われている。司祭自らが共同体の一員としての態度を生きることが、養成への呼びかけとなる。
・夫婦の一方だけが信者の場合、日曜日に教会に関わるのがやっと。実際には非常に難しい現実ではあるが、自立心等も必要不可欠。
・説教への反応が無い。説教で養成への招きをはかる。
・信徒が教会に抱くイメージを変える養成の必要。
・遊びが足りない。真面目すぎことが暗いイメージとなり、パーソナルなつながりが薄くなる。
・分かち合いの意味が分からない。他人の秘密が守れない（勉強は歓迎）。自発的に発言し、他の人の言うことを聞くことの大切さを味わう。
・信頼関係を築くのに時間がかかりすぎる。
・共同体の中で、役割や奉仕の分担と自分の居場所を見出すことの折り合いが難しい。
・自分の小教区だけに留らない広い視野を持てるように。
・親と子が心身ともに学べる乳幼児期の人格形成の第一期を、子育てに含まれる福音の実感と体験の場、み言葉の働きを感謝し合える場とする。

○組織レベル
・日本の教会は全てにおいて（大小に関わらず）、きれいにやり過ぎ、きんとし過ぎる。つまり、手段が目的にすり替わっている。目的と手段が混同され、労力と時間を過重にかける。（日本人は人を食事に招待したがらない。部屋が汚れていると思っているからなのか。しかし、食事に招待する事のそもそもの目的は、部屋が多少散らかっていても気兼ねなく付き合える仲間を作ることにある。日本では誰かを食事に招待した結果、部屋がきれいになる）
・日本の教会は手段における一致。（各委員会、信心会など毎に閉鎖していて、交流がなく全体としてバラバラ）奉仕も組織も規約も信心会も手段に過ぎなくなっている。ひとつの福音宣教という目的のためにある事を自覚する必要。

司教教書の説明に当る

○どうすれば良いか?
・楽しいイベントをもっと増やす。（会食、飲食など友達を作るプログラム）ホイジンガーの著名な言葉「Homo Ludens」（人間　は遊ぶ存在）。その他「遊びは文化よりも古い」「遊びは秩序を創造している」今様「あそびをせんとやうまれけむ」
・一つの目的のために、いろんな手段を認め合える組織づくりの努力。

## 求められる信徒・司祭・教会の交流

提案、疑問を聞き問題点を共有

・ブロックミーティング等で、その中にある施設、病院、学校、幼稚園等の存在を積極的に組み入れ福音宣教も話し合えるように。
・小教区の合併、小教区間の交流、親睦を深める（継続する）。それぞれの置かれている、地理的、年齢的、体力的現実を見極め、識別しながら無理の無い協力宣教を。伝えられる他の小教区での動きに関心や興味を持つこと。
・大きな祭りを合同で行う。家庭的温かさ、また距離を取る勇気。
・教会共同体が地域社会やより広い日本に託された福音宣教に価値ある事業（教育の場など）やイベントなどで、もっとその社会にいる（ある）人々が力を出せる場や機会を作り出すことも求められている。
・ミサやイベントの協力に終わらず、定期的な司祭間の交流・意見交換。
・説教の中での養成（教会の教え・司教のビジョンなど）
・家庭集会（ロザリオの祈りなど）の充実。
・司祭が共にいる時間を増やす、愛を具体的に表す。
・力強いリーダーシップの必要性。チェック　アンド　フィードバック。

## 神様が下さった ～春のプレゼント～

中島町教会　山崎佳子

3月に掛かり付けの医師の診断を受けた。ウィルスが騒いでいたら、という不安もあったが大丈夫だった。“変わったことないよ、まだ働けるよ”と言ってくださった。

その時　あー、神さまは健康を与えてくれたと思ったし、私には神さまからの春のプレゼントだと直感した。

よし、やるか!ですよね。新しい気持ちでこの一年、一歩を踏み出す尊い命。

この一年神さまとどうおつきあいしていこうか、とか、個として、又教会共同体として自分の賜物をどのように働かせていけるのだろうと、いろいろな思いが浮かんできた。

黙想会で自分を振り返る時を少し持ち、感謝し新たな気持ちでこの一年、自分の十字架を背負って前に進む。

神さまは“わかっただけじゃだめなんだよ”実行（実践）が伴わないと!と言われる。イエスさまが大切な仲間といつも関わっている姿に魅力を感じる。

大切な仲間として身をもってかかわることが自分の十字架だろう。毎日のように小さな誘惑がある中、この時自分は「どうなのか」立ち止まり判断し、識別する。それが自分に与えられた信仰の道だとも思う。

今、自分に信仰は本当にあるのだろうか。うわべだけのものではないだろうか。会合や活動ばかりにかかわって、ゆっくりと祈る姿が個々にしみついているだろうかと疑問がわく。

そんな事をふと思う時、今年は信仰年、これはチャンスだと思う。

今一度みんなで共に信仰について学び、このチャンスをいかしていこう。そして新しいエネルギーをいただこう。そう思う時、教区の再生と一致に向けても一つプラスされた明るいひざしがさしこんでくるような気がするのです。

食べる青唐辛子　絶賛好評発売中！
自然の味わいをいつまでも
株式会社サンコウフーズ
〒761-4421 香川県小豆郡小豆島町苗羽甲2206
TEL 0879-82-0530 FAX 0879-82-1102
URL http://sankou-foods.com
E-mail shodoshima@sankou-foods.com

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.idn-hcg.co.jp/sakamoto/

聖ドミニコ宣教修道女会

## 医療のともしび (32)
## サプリメントの健康被害

私たちが　日ごろ目にするテレビのコマーシャルの大半が　サプリメントの宣伝なのには驚きます。有名な俳優の言葉を毎日何回も聞かされると、暗示にかかってしまい、買って試してみようかと思わせられてしまいます。そうして使用した人の中に健康被害が増えてきていることが、医師会では問題になっています。

その理由を一度考えてほしいのです。「サプリメント」を「くすり」と考えている人が大半ではないでしょうか。しかも元気で長生きする「くすり」と。ところが、現に国はこれを食品として扱っているのです。ですから、医薬品に課せられている厳重な審査は必要とされていません。ここが問題なのです。というのは、ひとつの新薬が開発され、保険適用になるまでには、気が遠くなるような長期間に亘るプロセスが必要とされているのですから。

すなわち２～３年かけて新規物質の特許申請をとり、次いでその作用から毒性にいたるまでの非臨床試験に３～５年を要し、やっと確認申請となります。それから人体に有害性がないことが認められてやっと次の臨床試験にはいります。被検体としての同意を得たボランティアの協力のもとに、第Ⅰ相から第Ⅲ相までの治験に３～７年を費やします。その上、承認申請を受理した厚労省は、独自の研究施設で各専門官によるチーム審査を１～２年かけて行います。そして初めて医薬品として承認されるのです。膨大な時間と人力を要するのです。またその後、市販後調査も義務付けられています。

それを考えると、「サプリメントは薬とちがって副作用がないから安心」と思うのは非常識というものです。

食品として承認されたサプリメントの中には、効果を強く出すために、医薬品が混入されているものもあるのです。また伝統的な食品として、摂取する量をはるかに超えた濃度のものを長期間連用するのですから、健康被害が起きるのもうなずけます。

皆さんよくご存知の「うこん」を、或る人が１ヶ月間飲んで、全身倦怠、発熱、頭痛をきたし、肝機能障と分かり、入院したのですが、休薬のみで正常化したという例も最近医学会誌に報告されています。

私たちは聖書に書かれているように、光の子は賢くあれとの教えに従いつつ、与えられた日々を健康に過ごして行きたいものです。

坂出聖マルチン病院 内科　　曽我部輝子

## 教区スケジュール

**5月**
- 3日（木）憲法記念日　聖フィリポ　聖ヤコブ使徒（祝）
- 4日（金）みどりの日
- 5日（土）こどもの日
- 9日（水）経済問題評議会 10:00　祭司祭評議会 12:00
- 13日（日）復活節第６主日　世界広報の日（献金）
- 14日（月）聖マチヤ使徒（祝）
- 19日（土）宣教司牧評議会役員会 13:00
- 20日（日）主の昇天 田中栄吉師命日 ルルド祭in三本松 司祭交流会in下関
- 21日（月）西日本司祭交流会in大分

**6月**
- 3日（日）三位一体の主日（祭）
- 4日（月）宗教者平和懇話会主催巡礼in高野山（～６）
- 7日（木）司祭評議会 12:00
- 10日（日）キリストの聖体（祭）
- 11日（月）聖バルナバ使徒（記）
- 15日（金）イエスのみ心（祭）
- 16日（土）マリアのみ心（記）
- 17日（日）年間第11主日 司教叙階１周年記念祝典　第３回聖歌合戦
- 19日（火）諏訪榮次郎司教祝聖記念日
- 23日（土）宣教司牧評議会　13:00
- 24日（日）洗礼者ヨハネの誕生（祭）聖ペトロ使徒座への献金
- 25日（月）高松・広島教区司祭黙想会in長崎（～３０）
- 29日（金）聖ペトロ　聖パウロ使徒（祭）

## 被災者支援へ盛り上がる
### ミサ・バザー　コンサート開催
◇道後教会◇

東日本大震災の被災者を支え援助するためできることをしようーと道後教会では被災1周年の3月11日、祈願ミサ、支援バザー、鎮魂のコンサートを行った。

祈願ミサには未受洗者も多く見られ約90人が参加。震災で亡くなった方、行方のわからない方、困難の中で復興に向かっている人、支援する人たちに神様のいつくしみがありますようにと祈った。

支援バザーには坂本さんご夫妻手作りのカレー、マリア会の伝統の味マドレーヌ、アレンジフラワーなどが出品された。カレーのチケットは行列をつくるほどで順調に売れ、マドレーヌ、アレンジフラワーなどもまたたく間に売り切れになるほどの人気ぶりだった。

子どもの歌声が聖堂に響く

## 東日本大震災復興支援　チャリティーコンサート
◇桜町司教座聖堂◇

3月11日2時26分、聖堂の鐘がローソクの灯の揺らめきの中に静かに響いた。

ここ桜町司教座聖堂の聖なる空間が提供され、チャリティーコンサートが開かれ、震災、津波による死者への鎮魂と被災者支援への熱い志を胸に３００人ほどの人々が参集した。

午後1時から聖堂で、寺尾由香里さんによる被災現地報告の後、アンサンブル・ユビラーテ出演のコンサートが行われ、T・L・ヴィクトリア作曲の「レクイエム」（死者のためのミサ曲）の演奏で「永遠の安息を彼らに与えたまえ」の思いが重厚なハーモニーによって表現された。

曲の合い間には被災者の思いも朗読され、訪れた約60人の聴衆に感銘を与えた。

三つの支援行事は準備段階から信徒たちが話し合い、模索し進められた。「被災者支援」という目標のもとに心を一つにした一日となった。

プログラムは被災者の手記の朗読に始まり、鐘の音と共に亡くなった方の冥福を黙祷し、被災者のために祈りをささげた後、市内の音楽愛好家の企画により、桜町教会の子供達や幾つものアンサンブルや合唱など、レベルの高いコンサートで支援への心と熱意が伝わるコンサートとなった

## テゼ祈りの集い
### ～被災地に心を合わせて～

あの未曽有の大震災から1年目の3月11日、桜町教会の祈りの一日は、午後7時から諏訪司教様のリードのもとに地下聖堂で行われた「テゼ祈りの集い」で夜を迎えた。

はじめに映し出された大船渡の被災前と現在の映像に、あらためて東日本の方々の苦境に心を馳せ、追悼と慰めと再生の願いを口祷の歌に託した。「イエスはあの時も今も、苦しむこの被災地の方々とともに、がれきの中におられます」という司教様のことばが心に響く深い祈りの時であった。

## 賛美の歌で鎮魂を祈る

3月10日（土）午前11時、東北大震災の日に当たり桜町教会地下聖堂において「賛美の歌」が主催し、レナト・フィリッピニ師司式による鎮魂の祈りがささげられた。初めに香川県宗教者懇話会でおこなわれた東日本大震災1周年の追悼と再生を願う合同祈祷集会の内容が報告され、1年前の東日本大震災を過去の出来事として終わらせず、共に苦しみ、共に泣き、心を一つにして思いと祈りで一つに結ばれるようにと祈った。


神と出会う　イエス・キリストと出会う　自分と出会う

カトリック通信講座

## カトリック通信講座

どなたでも、いつからでも、どの講座でも、ご自分のペースでご受講いただけます。
わかりやすく書かれたテキストを読んだ後、解答はがきの設問（3～4問）に答えを書き込んでご返送いただきます。キリスト教を知りたい、学びたいと希望されながらさまざまな理由で教会にいらっしゃれない方や、受洗後、より学習を深めたい方がたに最適です。「幸せな結婚」は結婚準備講座としてもご活用いただけます。

<全7講座>

- T001 キリスト教とは　キリスト教の概要をやさしく説明。
- T002 聖書入門〔Ⅰ〕　四福音書を通してイエスの生涯を辿る。
- T003 キリスト教入門　秘跡や信仰生活など。受洗準備にも。
- T004 神・発見の手引　人生、自然などを通して神に気付く。
- T005 聖書入門〔Ⅱ〕　使徒言行録、書簡集、黙示録を扱う。
- T006 幸せな結婚　結婚の意味や愛、幸福などについて。
- T007 生きること・死ぬこと

産むこと、老いること、旅立つ人に寄りそうケア、いのちに関する問題を考察する。

受講料：T001～T004　4500円（教材費・税込）
T005～T007　5000円（教材費・税込）

<お申込み方法>
郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名・講座番号（T001～T007）をご記入のうえ、受講料を下記にお振込みください。
振替口座番号：00170-2-84745　加入者名：オリエンス宗教研究所

●ホームページ（http://www.oriens.or.jp/）、通信講座の携帯サイト（http://www.oriens.or.jp/mobile/ ）、パンフレットをご覧ください。
（ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします）
お問い合わせ・お申し込み：オリエンス宗教研究所　カトリック通信講座
〒156-0043　東京都世田谷区松原2-28-5　Tel ： 03-3322-7601
Fax ： 03-3325-5322　URL ： http://www.oriens.or.jp


## 映画紹介　高松直近映画館　岡山市：シネマ・クレール

優れた文学作品や映画に共通する普遍テーマにこの作品も触れている。それは「神のアリバイ(存在証明)」だ。「曇っていて日の光が差さないからといって太陽の存在を否定できるのか、そして愛は？」死を前にしたユダヤ人の老哲学教師が収容所の若いドイツ人看守長に突きつけるこの根本命題は、今日、「東日本大震災」の無数の犠牲者たちへの問いかけにもつながる。この映画は単なる反戦映画でも、人間性に潜む善悪の闘いを描いただけのものでもない。「神の存在証明」を鋭く、重く問いかけている。上記の理由から、映画「アンネの追憶」をカトリック中央協議会・広報として推薦致します（＊上映時期は未確定）
シネマクレール tel:086-231-0019

## 編集後記

典礼歴はご復活から早くも主のご昇天を迎えようとしています。
昨年の大震災後から仙台教区は新しい創造に取り組んでいます。主の復活の恵みを新たにし、全てを新しくされる主に信頼を寄せてこそ新しい創造が完成するのでしょう
高松教区もまた新しい態勢を整え、協力宣教司牧による一致と再生へと力強く一歩を踏み出します。


## カトリック新聞 無料試読キャンペーン

カトリック新聞は、日本の司教団が発行し、定期購読者に支えられています。国内はもとより世界のカトリック教会の最新情報を毎週お伝えしています。
東日本大震災は被災地の復興に向けての取り組みを精力的に取材し、詳しく紹介しています。

申　込　教会窓口の「カトリック新聞４週間無料試読キャンペーン申込書」ハガキでお申込み下さい。
締　切　6月３０日(土)
問合せ　カトリック新聞社　購読担当
☎ 03-5632-4432

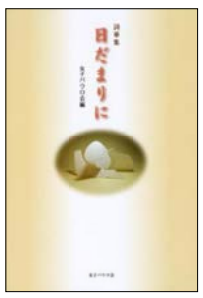

## 新刊書籍

### ■　老いて病み、想う

ニューマンの研究家で、長年、宗教哲学を講じて来た著者が、自身の闘病を機に半生を振り返りつつ、人間の生、老い、病気、戦争体験などを綴る。

目次：「Ⅰ・人間の欲求について」「Ⅱ・老いて病むことの意味」「Ⅲ・結論として再び共同体論」。

著者：川中なほ子　64ページ
判型：A5判並製　出版社：教友社
価格：840円（税込）




### ■詞華集　日だまりに

「こころ」「“わたし”さがし」「いのち」「夢」「祈り」のテーマで、心がふっと明るく なるような、美しく、やさしい詩や名言を集めた言葉の花束です。

思いどおりにはいかないことの多い日々、ふと開いたページの中に、暖かい日だまりのような言葉に触れて、気持ちを和ませ，こころ豊かに、明るく、前を向いて生きて行くことができるようにと願いつつ編みました。心から心へ、暖かな贈りものが広がって行きますように！

女子パウロ会 編　B6判　並製　104ページ
1,050円(税込)　女子パウロ会発行

ご好評をいただき、キリスト新聞（2012年3月24日）と教育新聞（2012年3月26日）の書評に掲載されました


私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

## 暁の星学園

鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園